

J E N E S Y S 2 0 1 7 大 洋 州 第 3 陣
(対象国：ソロモン諸島、パプアニューギニア)
(テーマ：防災・復興、環境・エネルギー) の記録

1. プログラム概要

ソロモン諸島、パプアニューギニアより「防災・復興」、「環境・エネルギー」に関心のある学生 51 名及び引率者 4 名が、1 月 10 日～1 月 17 日の 7 泊 8 日の日程で来日し、「防災・復興」「環境・エネルギー」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、東京都内に加え、「防災・復興」グループは熊本県を、「環境・エネルギー」グループは福岡県、大分県を訪問して、それぞれ防災・復興への取り組みや、環境保護・エネルギー政策に関する知見を深めるとともに、訪問地の魅力を多角的に感じる機会を持ちました。また日本の学生との交流やファームステイを通じて、日本の生活への理解と関心を深め、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。

帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

55 名（ソロモン諸島 21 名、パプアニューギニア 30 名、フィジー 4 名（引率） ※50 音順）

【訪問地】

東京都、熊本県、福岡県、大分県

2. 日程

1 月 10 日（水） 成田国際空港より入国

1 月 11 日（木） 来日時オリエンテーション

グループ A：【都内参観】都庁、新宿

グループ B：【都内参観】都庁、お台場

1 月 12 日（金）～1 月 16 日（火）

グループ A：【防災】そなエリアを視察後、熊本県へ移動

グループ B：【環境】環境省を訪問後、福岡県へ移動

(1) グループA：熊本県

【防災】熊本県庁

【復興】熊本城、阿蘇神社・門前町

【交流】阿蘇ファームステイ、熊本県国際交流事業高校生、熊本学園大学

【講義聴講】熊本学園大学「熊本と福島～2016年熊本地震と2011年東日本大震災～」、「熊本地震の時、在熊外国人たちは何を求めたのか」

(2) グループB：福岡県、大分県

【エネルギー】北九州市地域エネルギー推進課、北九州次世代エネルギーパーク

【環境】北九州市環境ミュージアム

【交流】安心院町ファームステイ、北九州市立大学国際環境学部

【歴史・文化】小倉城

1月16日（火） 東京へ移動後、

グループA：【復興】復興庁

グループB：【ポップカルチャー】原宿参観

1月17日（水） 浅草寺参観後、報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

3-1. 共通プログラム（オリエンテーション、報告会）

	
1月11日 オリエンテーション	1月17日 報告会
January 11 th Orientation	January 17 th Reporting Session

3-2. 防災・復興グループ（熊本県）

	
1月13日 熊本城	1月13日 阿蘇神社
January 13th Kumamoto Castle	January 13th Aso Shrine
	
1月14日 阿蘇ファームステイ	1月14日 熊本県高校生との交流
January 13th Aso Farm Stay	January 14th with high school students
	
1月15日 熊本県庁防災センター	1月15日 熊本学園大学
January 15th Disaster Prevention Center of Kumamoto Prefecture	January 15th Kumamoto Gakuen University

3-3. 環境・エネルギーグループ（福岡県、大分県）

	
1月13日 北九州次世代エネルギーパーク January 13th Kitakyushu Energy Park	1月13日 安心院町ファームステイ January 13th Ajimu Farm Stay
	
1月14日 小倉城 January 14th Kokura Castle	1月14日 北九州市環境ミュージアム January 14th Kitakyushu Environment Museum
	
1月15日 北九州市地域エネルギー推進課 January 15th Kitakyushu-city Regional Energy Promotion Division	1月15日 北九州市立大学 January 15th University of Kitakyushu

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ グループA：パプアニューギニア 学生

日本での滞在は、ずっと心に残る多くの印象を残しました。全ての経験をこれからに活かし、他の文化や伝統に広く開かれた自分でいたいと思います。日本語にも興味を持ち、学びたいと思いました。阿蘇でのホームステイで目にした、日本での日常生活の中に溢れる、他者への尊敬に満ちたジェスチャーを私も見習いたいと思います。

◆ グループA：ソロモン諸島 学生

地震により破壊された場所を見て衝撃を受けましたが、立て直すために実行された再建計画や、復興させようという強い意志に感動しました。

◆ グループB：ソロモン諸島 学生

日本で過ごした8日間の中で、テーマであった環境・エネルギーについて多くの新しく興味深いことを学びました。特に北九州での視察において、自分自身が経験できたことはとても幸せです。JENESYS2017に参加する機会を与えられたことにとても感謝しています。将来このような機会がまたあれば良いと思いますし、日本と自国の関係を維持・強化に貢献したいです。

◆ グループB：パプアニューギニア 学生

プログラムは素晴らしいものでした。日本の文化、言葉、食べ物や、お辞儀・笑顔・（お店で）お金を両手で受け取るなどの礼儀正しい伝統等、多くのことを学びました。日本は私が見た初めての、汚染のない環境を保つための発達した技術を持つ国であり、日本で作られた環境にやさしい開発技術に大いに魅了されました。プログラムはとてもためになるもので、学ぶと同時に楽しむことのできる施設には感銘を受けました。日本はとても清潔で空間意識が高く、美しい国であり、技術やインフラ、環境に優しい開発や発見、清潔さと他者への尊敬において世界は日本から学ぶことが多いと思います。そして、今日の日本があるのは人々の結束と協力の結果だと思います。

5. 参加者の対外発信

Picture taken on Thursday after an interview with the Provincial Radio Station: NBC Northern. Topics discussed: The JENESYS Program, what I learned on the trip regarding energy and environment; and encouragement to the young listeners in the province on JICA scholarship opportunities and the importance of education and studying hard to contribute towards the development of the province and nation as a whole.

From left to right: Jonalyn Inga (Announcer), Alythea Siraba (Group 3B Participant) and Muriel Tovivi (Journalist)

#ANewPerspective #JENESYS2017 #PacificIslandStudents #GROUP3B #ENVIRONMENTandENERGY



NBC Northern というパプアニューギニアのラジオに出演。JENESYS について、またエネルギーという環境というテーマでのプログラムで学んだこと、JICA 奨学金や、国や地域の発展に貢献するため勉強することの重要性等について発信。

Picture taken on Thursday after an interview with the Provincial Radio Station: NBC Northern. Topics discussed: The JENESYS Program, what I learned on the trip regarding energy and environment; and encouragement to the young listeners in the province on JICA scholarship opportunities and the importance of education and studying hard to contribute towards the development of the province and nation as a whole.

#Homestay. So overwhelmed by witnessing warm love and welcome..



Facebook にて、ホームステイについての発信。「温かい歓迎と愛を目にしてとても感動しました。」

#Homestay. So overwhelmed by witnessing warm love and welcome..

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
アクション・プランの発表（グループA） ・教会での活動後にプレゼンテーション ・大学でのセミナー開催 ・ JENESYS と日本を宣伝するための Facebook ページやグループチャットを作成 ・新聞や雑誌に記事を投稿 ・（災害後の建物の）復元プロセスや復興政策について政府や機関に訴える ・災害に備え、災害管理対応チームを地域のコミュニティ内で結成する	アクション・プランの発表（グループB） 以下によって、日本と JENESYS の宣伝を行う； ・ USP のオープン・デー ・地域のコミュニティ、高校や短大等での認識を高める ・ ソロモン諸島放送協会と EMTV（パプアニューギニアのテレビ局） ・ ニュースレター ・パプアニューギニア大学での大会や展示会で学生に呼びかける ・ JENESYS での経験を学校機関誌やウェブサイト、SNS にて発信
・ Presentations after church programmes (photos, videos etc…) ・ Seminars during lectures in our universities ・ Create Facebook pages and group chats to promote Jenesys and Japan ・ Publishing articles in Newspapers and Magazines ・ Appeal to the Government and its agencies about restoration processes and reconstruction strategies ・ Create Disaster Management Response teams in our local communities in preparation for any disaster.	Promoting Japan and the JENESYS Program through; ・ University of South Pacific Open Day (Annually) ・ Conduct awareness in Communities, High Schools and Colleges ・ Solomon Islands Broadcasting Corporation and EMTV. ・ Newsletters ・ Talk to students during Tourism Convention and Exhibition in UPNG ・ Publish the JENESYS experience in school magazines, websites and social media.